

熊谷直治先生を送ることば

英文学科長 後藤善久

熊谷直治先生は2007年3月末日をもって札幌大学女子短期大学部を惜しまれつつご退職されます。

札幌大学は2007年に創立40周年を迎えますが、この記念すべき年を迎えられるのも、熊谷先生のご尽力があったからこそであります。札幌大学は昭和42年4月に開学しましたが、熊谷先生は札幌大学設立の準備作業に入った昭和41年に札幌大学開設準備委員となり、先生の深い見識と高い実務能力で大学設立に多大なる貢献をなされました。開学後も大学運営や学生指導に想像を超えるエネルギーが必要であったと拝察されますが、先生は本学の発展と学生指導に惜しむことなく情熱を注がれました。昭和61年には、勤続20年の表彰と同時に、本学創立に尽力された功績を称えられ表彰されています。札幌大学と札幌大学女子短期大学部の発展を現在まで支えてきた最大の功労者であると言っても過言ではありません。先生の長年のご尽力に心から感謝申し上げます。

熊谷先生は音響音声学を専門とし、また、詩にも造詣が深く、特に、W.B. イェイツの詩の研究に取り組んでこられました。イェイツの詩のリズムを機械で分析する一連の研究は、『英語青年』で紹介されるなど、創造的な研究手法として注目されました。講義においても音響音声学と詩に関する専門知識を大いに発揮され、ゼミナールでは学生の英語音声をコンピューターで分析したり、英米文学の講義では、英文の朗読テープを聞かせたり朗読させるなどして、英語の美しい音やリズムを体感的に習得させる楽しい授業を実践されていました。また、先生の温厚な人柄を慕う学生も多く、熊谷ゼミへの希望者が定員オーバーになり抽選を余儀なくされたことなどが思い出されます。熊谷先生のお人柄や社会貢献が高く評価され、昭和50年には全国短期大学秘書教育協会から名誉秘書士の称号を受けられておりま

す。

この度、熊谷先生がご退職されることは誠に残念ではありますが、先生には、ご健康に十分ご配慮されながら、音声コンピューターを駆使して一層の研究活動にお励みくださることをお祈り申し上げて、送別の辞とさせていただきます。